

「集落福祉」いろいろ

日本福祉大学 小國 和子

黒潮町から全国へ



10月10日、日本福祉大学・高知県自治研究センター共催による「集落福祉から考える中山間地セミナー」が黒潮町で行われました。「集落福祉」という新しい考えについて、同大学・小國和子准教授に寄稿いただきました。

◆生涯「生産者」として社会につながる

私たちが黒潮町を訪問したきっかけは、「庭先集荷」事業でした。65歳以上が約半数を占める地域で、自力出荷が難しい生産者のために、各家庭を回り直売所へ運ぶサービスです。「高齢者」「福祉サービス」の受け手」との考え方がある中、庭先集荷の出荷者が、高齢になってもいきいきと「生産者」であり続け、市場とつながり、経済活動を続けることが、やりがいをもって生活する支えになることに、強く感銘を受けました。



◆庭先集荷は多機能サービス

もう一つ重要な点は、庭先集荷が「多機能サービス」であること。集荷作業に従事するビジネスサポーター(BS)は、出荷を休んだ時は健康を気遣い、直売所の情報を伝えて値つけなどの相談に乗りまします。BSの存在は、高齢者の見守りや買い物支援に通じるサポートであり、利用者が情報を得、町とつながる接点になっています。

◆中山間地域の農業生産支援における「入口」と「出口」

農業振興では、新規就農者を増やし担い手を育てる、生産活動の「入口」支援が急務です。しかし今後ますます高齢化する地域では、住民ができるだけ長く「生産者」であり続けるための支援、言わば「出口」支援も切実な課題です。

◆生産×福祉で集落維持を

生活上で必要な集落機能を維持するさまざまな活動と、それを支援する多様なサービスの組み合わせから生まれる地域内外の人・モノ・情報の循環を、私たちは「集落福祉」と呼んでいます。庭先集荷は、集落福祉を実現する鍵が「多機能で地域を結ぶ可動サービス」にあることを教えてくれました。

ぐっち協力隊がゆく!

地域おこし協力隊・田口佳子
☎43-3306(旧馬荷小学校)



師走の風の冷たさはひとしおですね。皆さんお元気でお過ごしですか?

11月2日馬荷・御坊畑地区で「地域の秋を楽しむ会」(写真1~6)、11月3日大方橘川地区で「こすもすの花見in橘川」(写真7・8)が行われました。お手伝いしながら私が一番楽しんでいた気がします。



1もちの準備 2よさこい鳴子踊り 3神踊り 4児童作のかかし 5ウォーキング 6パントマイム 7フォークダンス 8もち投げ